



次の時代の防災対策

都市における課題考える

日本自治体
危機管理学会

日本自治体危機管理学会（会長・中邨章明治大学名誉教授）は9月29日、

東京・新宿区の新宿NSビルで、シンポジウム「次の時代の防災対策のあり方について」都市における防災課題を多面的に考える」を開催した。後援は東京都、河川財団。オリエンタルコンサルタンツが事務局を務めた。

シンポジウムは、中邨会長の開会挨拶、中林一

樹明治大学政治経済学研究所特任教授による趣旨説明の後、I部では、藤山秀章河川財団理事、加藤孝明東京大学生産技術研究所准教授、垣内俊哉ミライ口代表取締役社長が登壇、高齢者や障害者、外国人観光客など災害時に配慮を要する者の視点から、今後の防災対策の課題について話題提供が行われた。また、オリエンタルコンサルタンツ関東支店 地域活性化推進部の大西康弘次長も、主に観光と防災の視点から話題を提供した。

その後、II部では、中林特任教授をコーディネーターとして、国際的イベント開催に伴い外国人観光客に対して災害時配慮すべき点や、高齢者・障害者等に対して災害時配慮すべき点、地域コミュニティの希薄化に対して災害時配慮すべき点等について、活発なディスカッションが行われたII写真。